

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	脳転移のあるがん患者のアドバンスケアプランニングー病棟看護師の介入を振り返るー
	研究目的	がんは、慢性疾患という概念になり、治療を受けながら社会生活を送るサバイバーが増加している。がんを抱えた生活者としてのその人らしさを大切にすることが、がん患者のQOLの向上に役立ち、がん看護では、重要な要素である。近年、家族の多様化が進み、家族のサポートを受けず、治療を継続する患者が増え、病状悪化時の入院生活でADに関連した介入を行うことが増加している。病棟看護師は、その場面で初めて、その人の生き方や、希望を知り、家族関係や家族が抱える問題を知ることがある。そのため、アドバンス・ケア・プランニングの概念を取り入れた看護師の介入は、診断期から終末期まで一貫して必要である。その為、病棟での看護師の実践をアドバンス・ケア・プランニングの視点で振り返り、病棟における看護師の役割と課題を明らかにする。
	研究対象者	脳転移のあるがん患者1名
	研究期間	西暦 2020年 1月 29日 ~ 西暦 2020年 3月 14日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	村上裕美
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	看護局6W病棟
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	看護局6W病棟 主任看護師 村上裕美